

仏様のおはなし新シリーズ第134集「学仏大悲心」

以前 私の友人が宗教の教員免許を取得するためには教育実習を行つた時のこと話を話してくれました。ある日のこと、生徒さんから「仏教を学んで何の役に立つのですか」と質問を受けたそうです。受験科目をもつと勉強したいのにと思っている生徒さんたちは多いことでしょう。その生徒さんに対してこのような話をしたそうです。「一緒にいるのはお友達?」「はい」「いつも仲いいの?」「まあ…仲いいですね」「役に立つから仲がいいのかな」「いや…」「役に立つか立たないかで物ごとを判断していくのはどこか判断する物差しが歪んでいるんじゃないかな。仏教はそんな自分が持つていてる物差しを疑い仏様の物差しを学ばさせてもらうんだよ」そんな会話だったそうです。

親鸞聖人が尊敬された七人の高僧の中に善導大師という方がおられます。その善導大師が遺されたお言葉に「学仏大悲心」というものがあります。「仏教を学ぶということは大慈大悲である仏様のお心を学ぶことである」という意味です。「慈」とは人の幸せを一緒になつて喜んでいくことのできる心のはたらき、「悲」とは人の痛みに気付きその痛みに共感していく心のはたらきです。阿弥陀仏とは、このような大慈大悲の心を持つて全てのものを包み淨土へ導きたまう如来です。ひるがえつて私たちが持つていてる我欲がつくり出す浅ましい心の世界は、よりどころを持たない私たちを迷いの世界におし進めていきます。おおよそ

如来のお心とは真反対の在り方をしています。自分に都合が良いか否か、役に立つかどうか利益になるならない等、互いに憎しみ合い恨みあつて明け暮れています。こうした中で仏様のお心を学ぶことによつて仏の大悲心に呼び覚まさ自分だけの幸せを求めている自分に気づかせていただくのです。

